日 乗 連 ニ ュ ー ス
ALPA Japan NEWS
www.alpajapan.org
Date 2004.06.11　No.２７－１０１

発行：日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5－11－4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274

＜IFALPA　AA Committee 報告＞（アメリカ・シアトル）

・JAL706 刑事裁判　ICAO 代表からも驚きの声

・ ICAO（国際民間航空条約機構）事故防止マニュアル改定、IFALPA における担当は日本とオランダ

2004 年 6 月 2 日から 4 日まで、IFALPA　Accident Analysis Committee（事故解析委員会）が世界 21 カ国、37 名（ボーイング、エアバス、ICAO からのオブザーバーも含む）の参加によりアメリカ西海岸シアトルで開催され、日本からは舘野 ALPA-Japan AA 委員長、桝谷 副議長の 2 名が参加しました。今回の会議はボーイング社の招聘によるもので、会議前日の 6 月 1 日にはボーイング訓練センターにて「Tail strike prevention」、「777-300ER Flight Certification」、「Accident Investigation Techniques」に関する Safety Seminar が行なわれました。

Seminar においては、「Tail Strike は離陸より着陸が多い」「MD11 は 40 / 100 万回離着陸（90 年代）で他機種の 2～3 倍あること」「昨年の B747 における 7 件中 5 件が crew in delay &rushed with mechanical SQ によるもの」などの研究結果が報告されました。そして、ボーイング社内の事故調査チーム編成、初動体制、期間的対応（mobile, field, Follow, Action）等、発生場所（空港、海、密林、砂漠、市街地、氷河）による対応の変え方などの概要が説明されました。そしてセミナー終了後 Everett Boeing field にて工場見学が行なわれました。

翌 2 日からの committee meeting では、任期満了に伴う役員の交代が行なわれ、chairman は Gavin Mckellar 氏（South Africa）、vice-chairman は Pete Eggler 氏(Switzerland)が任命されました。会議中日本からは、「MD-81 Landing gear 折損事故」、「MD-81/87 P&W Engine trouble」、「JAL706 刑事裁判」それぞれについて Presentation を行い各国から大きな反響を呼びました。

（裏に続く）

「MD-81 Landing gear 折損事故」に関しては、ボーイングから Anti-Skid の Vibration による疲労破壊の見方が示され、スペインの代表からは過去の類似ケースの報告がありました。

P&W のエンジントラブルに関しては BOEING からの説明は無く、同型エンジンを多く使用しているイタリア、スペイン、同型機を多く所有するフィンランド、アメリカの委員から国内の状況を再度確認する事を約束されました。また ALPA International(アメリカ)では、P&W 社の状況、Singapore ALPA からは、当該エンジンを直接 maintenance した SPRO 社について調査する等の協力が申し出られました。

JAL706 に関しては名古屋で行なわれていた裁判の経緯、そして 7 月 30 日に判決が言い渡される事についてビデオ等も使用し説明を行ないました。委員からの関心は非常に高く、各国の委員から ICAO 代表への質問などが相次ぎました。これに対し ICAO 代表からは「条約を批准している日本において、この様な行為が行なわれているとは信じられない」との発言があり、参加各国は引き続き日本の情勢を注意深く見守る事で一致しました。

又、1984 年に ICAO の Accident Prevention Manual / Doc 9422（事故調査マニュアル）は 1984 年に初版が発行されて以来、大きな改訂がなされてきませんでした。しかし、事故の事前防止の重要性の考え方が広まってきた情勢に呼応して、内容の update を行なう事となりました。ICAO は IFALPA に対して改定案の諮問を行い、IFALPA としての担当は日本及びオランダが指名されました。ICAO の事故調査マニュアルに関する皆さんのご意見をお寄せ下さい。

その他各国で発生した事故、インシデント等に関する報告が行なわれ、次回は 9 月 30 日からシンガポールにて開催する事を確認し、全ての会議日程を終了しました。